

豊明市行政評価制度「施策」評価票

施策評価票番号

1

1 施策の概要

1-1 施策の名称	総合的な環境施策の推進			基本施策コード	1 1 1
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	環境課	評価票作成者 環境課長 土屋正典
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」			
	項	環境保全			
1-4 施策の目的	地球環境問題に対する関心が高まり、地球環境にやさしい生活を実践する市民を増やす。				

	平成22年度評価 (前期の成果)	平成27年度評価 (全期間の成果)
担当課評価	A	
総合評価	A	

施策評価の判定基準

- A : 施策の目的を効果的に達成しているので継続する
- B : 施策推進の実手法等に改善の必要がある

1-5 総合計画における基本成果指標	基本成果指標名	前期(平成18年度~平成22年度)			全期間(平成23年度~平成27年度)			指標の定義
		目標値(単位)	実績値(単位)	達成率(%)	目標値(単位)	実績値(単位)	達成率(%)	
	環境基本計画による施策達成率	50(%)	50	100	70(%)			施策全般の充実状況を表す指標

2 施策の担当課による評価結果

評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	既存事業の構成や優先順位の考え方、新規事業の必要性の考え方	施策の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	環境基本計画を重視し、率先実行計画を立案した。	5年に一度の中間見直しを実行し、次期5年間の短期目標を立案した。	環境審議会を開催し、環境基本計画の中間見直しを実施した。
平成19年度	地球温暖化防止のための施策が求められた。	環境基本計画の短期目標の実現のための施策の立案が急務である。	環境基本計画の進捗状況を環境審議会に報告した。
平成20年度	COP10開催決定により、環境問題への関心が高まりつつある。	地球温暖化防止に対し、市としての環境施策を再考する必要がある。	環境基本計画の進捗状況の各課ヒアリングを行い、単年度の状況をわかりやすくまとめることができた。
平成21年度	COP10開催にむけさまざまな催しも行われることで環境問題への関心が高まりつつある。	地球温暖化防止に対し、市としての環境施策を再考する時期に来ている。	〃
平成22年度	環境基本計画を中心として地球温暖化防止施策を実行した。		
平成23年度	環境基本計画を中心として地球温暖化防止施策を実行した。		
平成24年度	環境基本計画を中心として地球温暖化防止施策を実行した。		
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

